

議 事 録

会 議 の 名 称	第 6 回小美玉市小学校（小川小学校・橘小学校）統合準備委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 6 月 2 1 日（火） 1 9 時 0 0 分～
開 催 場 所	小川総合支所 3 階 大会議室
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <p>小川錬太郎 千葉 栄子 川名 美佐 埴 学 代々木 孝 高野 一郎 稲田 雅志 柏 敬祐 久保田輝男 水内 幸恵 平塚 健一 小島 健一 平本 敏彦 長島 功 藤井 敏生 笹目 雄一 谷仲 和雄 植木 弘子 長島 主</p> <p>【欠席委員】</p> <p>伊野 勝亮 東 邦彦 藤崎 剛 竹内 文枝 近藤 貞夫 山中 光枝 宮司 瞳</p> <p>【事務局】</p> <p>加瀬 博正 長谷川正典 石田 進 中村 均 比気 龍司 植田 薫 田山 伸一 外之内信浩 戸塚 聡 田村 直弥</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度スケジュール（案）について ・校名の選定方法について
会 議 資 料	別 紙 （ 会議次第、 他 ）
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 （傍聴者 0 人）

【委員長あいさつ】

第6回ということではありますが、今年度は1回目の開催となっております。委員も若干代わりましたので、議事の中で平成27年度の経過についても事務局から改めて説明をいただきたいと考えております。その中で新しく委員になられた方には、質問等をお願いしたいと思っております。また、段々と統合が近くなってきており、部会に分かれ、細かなことを決めるということが出てきます。今年度からは、更に細かい部分で会議が増えるということもあるのではないかと思います。が、ご協力をお願いしたいと思っております。

【委嘱状の交付】

今年度より新たに委員となった7名に委嘱状を交付
(時間の関係上、省略)

【統合準備委員会委員の自己紹介】

【事務局職員紹介】

【統合準備委員会副委員長選出】

委員より事務局一任の声あり
事務局が小川小学校長 高野 一郎 委員を推薦
全会一致で事務局案を承認

委員長 平成27年度は校舎の設計を中心に進めてきたので、事務局にその経過の説明をいただいてから議事に入りたい。

事務局よりスライドショーを用いて説明

事務局 統合小学校は、現小川南中学校に校舎を新たに建設する計画となっている。体育館は現行の施設を利用し、プールは現行の施設を小学校用に改修して利用する。このため、既存の校舎は解体する予定となっている。
学校へのアプローチは、2箇所となり、既存の正門と体育館付近の入口を計画している。また、既存正門の左側に車両動線を設け、統合小学校で想定されるスクールバスといった車両の動線と歩行者の動線を分離させる内容になっている。
続いて、新校舎の建設位置について説明させていただく。校舎は、なるべく

南向きになるよう、現校舎よりも角度を付けて校舎を配置している。そのため、校舎の後方に駐車スペースを大きく取れるようになった。

次に校舎内部について説明したい。校舎1階部分は、正門側から職員室、校長室、放送室、保健室と配置し、その隣、校舎中央に昇降口を配置している。更にはその隣には特別支援教室と多目的室を設けている。多目的室は、放課後児童クラブとして使用する予定となっている。特別教室は廊下を挟んで反対側に図工室と家庭科室を配置している。

2階部分には1～3学年の教室を配置している。普通教室には多目的スペースを設けることによって、教室を広く利用できるようにしている。特別教室は理科室とラーニングセンターを配置している。

また、3階部分には4～6学年の教室を配置した。普通教室には2階と同様に多目的スペースを設けている。特別教室は音楽室を配置している。

基本設計の説明は以上となる。

委員長 昨年度は、何度も話し合いを行い、子ども達の過ごしやすい校舎ということで進めてきた。また、現南中は冬の期間は寒いということがあり、校舎を南に向けるということ、更に子ども達が多く時間を過ごす普通教室を全て南側に配置させている。また、教室と多目的スペースが繋がっており、現在の各小学校で使用している教室より広がっている。子ども達が段々と少なくなってくるので、40人が入ることはないと思うのだが、スペースが広く、過ごしやすくなっている。特別支援学級も3クラスを1階に配置している。また、昨年はスクールバスの安全面が話題に上がったので、車と人がなるべくクロスしないような入口にしている。そういった関係があり、現在の南中よりもグラウンド側に道を広げ、そのスペースを確保し、校舎を南側に向けている。

【協 議】

(1) 本年度スケジュール(案)について

事務局 平成28年度のスケジュール(案)の説明を始める前に、簡単に準備委員会の説明をさせていただく。小川小学校・橘小学校統合準備委員会は「小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画」に基づいて小川小学校・橘小学校を統合し、平成31年4月に新しい学校を開校するために必要な準備、検討及び調整を図るため、昨年度に発足した。準備委員会は委員長が委員を招集して会議を開催し、統合校の統合準備に関する事、建設に関する事、その他統合に必要なことの検討を行う。さらに詳細な検討が必要となった場合、準備委員会の中に専門部会を設置し、検討を行う。委員の任期は、委嘱された日から統合の日までとなる。所属する団体の役職交代等の際には後任者に委嘱している。委員会の開催日については、委員長名の通知を送付させていただく。

資料1に基づいて説明

統合準備委員会は6月、7月、9月、11月、1月を予定している。検討事項について説明したい。実施設計については7月から2月に予定している。設計業者を決める入札を7月に行い、設計業務を委託する。昨年度に作成した基本設計をもとに受託した業者が設計を行う。準備委員会では、設計中に変更が生じた場合や設計が完成した際に報告をすることとなる。校名については、6月から3月までの予定としている。この後の議事(2)において、スケジュールを含めた「校名の選定について」の詳細を説明する。続いて、総務・通学部会のスケジュールを説明したい。検討事項は、「通学体制」、「通学路」、「スクールバス」についてとなっている。「通学体制」は、平成28年10月から平成29年度末までを予定している。「通学路」と「スクールバス」は、同じく10月から平成30年度末までを予定している。この3つについては、10月から総務・通学部会を設置し、検討を行う予定。設置、開催については9月の準備委員会で検討いただきたい。学校運営部会のスケジュールについて説明したい。「教育課程等」と「交流事業」については、平成28年6月から開校までを予定している。この2つについても専門部会を設置し、検討、実施を行っていく予定。補足として説明したい。校名を昨年度のスケジュールでは専門部会での検討と予定していたが、準備委員会全体での検討事項に変更している。また、「通学体制」、「通学路」、「スクールバス」の検討開始時期を6月から10月に変更した。なお、スケジュール(案)であるため、会議の進捗により開催回数に変更が生ずることがあるので、了承いただきたい。

(2) 校名の選定方法について

資料2に基づき事務局より説明

事務局 校名決定の手順について説明させていただく。まず、本日も含め、6月、7月に行われる統合準備委員会において、校名の選定方法の決定をいただく予定となっている。なお、校名の選定方法によっては、その後のスケジュールも大きく変わるため、時期については、目安として承知いただきたい。次に統合準備委員会において、校名案の決定をいただく予定となる。校名案の選考方法にもよるが、10月から11月頃を予定している。その後、教育委員会において、統合準備委員会の決定した校名案を報告し、議決、承認を経た後、来年3月の市議会において、「学校設置条例の一部を改正する条例」の議決を経て、校名の最終決定となる。

資料3に基づき事務局より説明

事務局 想定される校名の選定方法を事務局案として5案、記載した。

①各委員が校名案を出し、統合準備委員会の場で話し合い、校名候補を決定

委員に校名案を持ち寄っていただくことも考えられる。

②各委員が選出母体の校名案をまとめ、それを統合準備委員会で話し合い、校名候補を決定

各委員は各学校の関係者、PTA、地域の方等々の出身母体がある。それぞれの出身母体で校名案をまとめたものを持ち寄り、準備委員会でそれを協議し、最終的に準備委員会として校名候補を決めていくという方法。

③校名案を統合準備委員会の場を出し合い、その校名案を示して児童、保護者、地区等からの投票により校名候補を決定

各委員が出した校名案を統合準備委員会だよりに掲載し、投票のような形で決定するもの。準備委員会で候補を決め、最終的には地域の方々を含めた投票のような形で決定する方法。

④校名案を児童、保護者、地区等から募り、統合準備委員会において校名候補を決定

校名案を児童、保護者、地区等の方々からいただき、それを準備委員会の場で選定していくということとなる。具体的には、統合準備委員会だよりと校名募集用紙を兼ねるものを用いて募集を行い、集計し選定していくこととなる。

⑤校名案を全市民から募り、統合準備委員会において校名候補を決定

④の方法を全市民、市域全域に広げて校名案を募り、統合準備委員会において決定する方法。

大別すると、①と②は、準備委員会での話し合いで校名候補を決定する方法。③は、準備委員会で校名候補案を決定した後、保護者、児童等の投票で決定する方法。④と⑤は、校名案を公募する方法。④は対象の学区のみを公募の範囲とし、⑤は市域全域に広げた方法となっている。

上記①～⑤の選定方法が考えられるが、いずれの場合も準備委員会としての校名候補を決定後、教育委員会に報告する。教育委員会において統合校の名称として議決後、市議会に「小美玉市立学校設置条例」改正案として上程し、議会の議決をもって最終決定となる。

委員長 まず、「校名の選定方法について」は5つの案が示されているので、今回の

	委員会で絞っていききたい。意見をいただきたい。
委員	地区の立場での意見としては、④が良いと思う。①、②、③については、各委員から校名を出すという形となり、上から押し付けるといったイメージがある。広く地区の方々、児童も含めた保護者、小川小学校区と橘小学校区で校名を募り、その中から統合準備委員会において、校名候補を決定することが私としては良いのではないかと思う。
委員	④が良いのではないかと思う。⑤になると対象が広すぎるのではないかと思う。市の名前を決めることとは違うと思う。①から③は、準備委員会の中だけで決まってしまうように感じる。③においても、準備委員会で候補を出すので、その中から選んでもらう形になってしまう。
委員	元気っ子幼稚園という名前を決めた際には、どのような方法でつけられたのか。
事務局	公募で決定した。羽鳥小学校の児童の案となっている。
委員	なかなか良い名前だと思う。それが小学校に繋がるかどうかは分からないが。
委員	地域で行うことも良い方法だと思う。しかし、小美玉市全体に統合する学校を知ってもらうためにも、全市民から公募し、名前を選んだ方が良いのではないかという気がする。
委員	私も④か⑤が良いと思う。あとは、⑤にすると色々と手間が大変ということもあるだろうと思う。
委員長	手間というよりも、この後、統合が進んでいく関係がある。北中学区、玉里地区も進んでいくと思うので、そちらも踏まえて決定していくと良いのではないかと思う。毎回、全市に公募を行った場合も考慮しなければならないのではないか。
委員	小川小と橘小の統合なので、小川南中学区の方を対象とした方が良いのではないかと思う。それぞれ地域性があるので、絞った方が良いのではないか。また、案が決定後に投票となる場合。投票がどういった形になるのかどうか。極端な話をすると、投票が少なかった場合において、得票数が1位となった案が校名となるのかどうかということがある。他にも、得票数が同じ程度となった場合にどうするのかどうかということもある。投票率100%という状況であれば問題ないとは思いますが。また、全市的に投票を実施した場合、他地域の方が投票が多いという可能性もある。投票について具体的に詰めていった方が良いのではないかと思う。
委員長	校名の候補を決めた後、どうようにするのかということかと思う。
委員	北中学区、玉里学区の際、この委員会での内容がある程度基準となっていくかと思う。公募の際、どのような募り方をするのか、応募いただく上での進め方を具体的な形に詰めていければ良いと思う。
委員	校名候補は、この委員会で1つに絞った後に教育委員会に校名案として出すのか。
事務局	おそらく公募をかけると、もの凄いい数の校名候補となると思う。そこから集計を行い、1校に絞るということは1回の会議では難しいと思う。一般的には、5つくらいに絞ってから1つに絞るという段階を経て、最終的な候補を決める事例が多い。小美玉市の市名についても、おそらくそのような方法で行ったものと記憶している。

委員 いくつかの方法をここで話し合い、10個であれば10個に絞った後、1つに絞るということか。

事務局 最終的にはそうなる。

委員 ④と⑤となると、そうなるということか。

事務局 その通り。

委員 ③は違う形になると思う。

委員 候補を募り、それに対して投票してもらったこともあるのではないか。

委員 最初に集まった膨大な校名候補から5つ選ぶのは誰が選ぶのかという話がある。

委員 同じ校名案が複数出てくるかもしれない。そうすると、投票と変わらない。多いものを選ぶということになってくるのではないか。集まった校名候補を準備委員会の場で広げたら、もの凄いや量になる。

委員 小中一貫校を目指している場合も中学校と別の名称でなければならないのか。

委員長 ④と⑤に関しては、公募を行い、最終的に絞るのは準備委員会ということか。

事務局 その方向で考えている。

委員長 ③については、投票で決めるということか。

事務局 その通り。

委員 ④と⑤について、公募を行った後、どのように進めていく考えなのか。

事務局 公募を行った後の選考方法については、今後さらに協議を行うしかないと思う。ただ、④や⑤になった場合の今後のスケジュールとしては、まず次の統合準備委員会までに募集要項の事務局案を作成させていただくことになる。④と⑤になった場合、夏休み期間を利用した公募を考えているので、夏休み前に次の準備委員会を開催し、その中で募集要項などを決めていきたいと考えている。

事務局 私はこれまで「みの〜れ」の名称公募や「そ・ら・ら」の公募に携わった経験がある。その時はどちらも⑤のやり方であり、全国に公募をかけた。委員の意見にあったように、全国までいかななくても、市全体までは絞り込めると思う。公募の後には、いずれも選考委員会をつくった。今回は選考委員会が準備委員会に代わると思われる。例えば、100、200、300、1000と集まったとする。これまでのやり方の場合、数が多いといったことではなく、準備委員に「この名前が良い」というものを10個程度に絞ってもらう。これは数ではなく、自分達の将来を見据えた学校名として各委員の主観で「この名前が良い」という案を持ち寄っていただいて1度会議を行い、更に絞り込んでいき、最終的に1校にするというやり方で「そ・ら・ら」、「みの〜れ」は進めてきた経過がある。数が多いために事務局で10個に選ぶのではなく、委員に10個選んでもらう流れが1番良いのではないかと考えている。また、④と⑤の違いは、応募する範囲が関係する地区の人達だけなのか、市内全域で名前を考えていこうということなのかということ。統合小学校を周知徹底していこうということには効果があると思う。ただ、関係する地区での応募が少なく他の地区が多い場合、地区の学校に対する思いが薄れていってしまうデメリットもあるのではないかと考える。難しいことだとは思いますが、準備委員に託された課題ではないかと思う。

委員長 最初に示された5案の中で、①から③は難しいと思う。④か⑤で意見を集約

	したいと思う。
委員	事務局から色々な話が出た。「そ・ら・ら」は全国から募った。本来であれば、学校は小川と橘の関係各位の中で決めれば良いのではないかなと思う。出来た案を持ち寄って、この準備委員会で色々と揉んでいくような方向が良いのではないかなと思う。
委員	私も④か⑤で迷っている。市内全域に統合小学校を知らせるためには、市内全域から募集をかけるといったことも良いと思う。ただ、玉里地区や小川北学区の統合もあるので、そことの兼ね合いもある。いずれにしても、④と⑤しかないと思う。
委員	玉里は1校になるのか。
委員	玉里地区に1校となり、小中一貫校となる。
委員	学区で募集するのか、市内全域で募集するかとなった場合、おそらく玉里地区や小川北地区においても、この準備委員会での検討と同じようになると思う。ここで市内全域とした場合、他の地区も市内全域となる気がする。
事務局	今までの経験からすると、玉里地区において、なぜ他の地域が意見を言うのかという意見が出てくる可能性もある。
委員	例えば、小川小学校と橘小学校による統合小学校の校名を決めたとして、それを考えた人が玉里の方、美野里の方という場合もある。
事務局	小川・橘の統合小学校と小川北地区の統合小学校を考えた場合、それぞれの学区を同じように考えることはできると思う。しかし、玉里地区の小中一貫校については、施設一体型となるので若干違ってくる。小学校分野と中学校分野が同じ区割りの中に入ってくることになるが、あくまでも9年間を見据えた教育の中では、小学校は小学校の正式名、中学校は中学校の正式名を持ちながら、それらを総称して「〇〇学園」という表現の仕方もある。若干の違いを含め、校名の選定方法についても考えていただきたいと補足したい。
委員長	国田は、国田義務教育学校という名称になったのか。
事務局	そのようになった。
委員長	つくば市は、「〇〇学園」という言葉を頭につけ、その後に「〇〇小学校」としている。小中一貫校になると、義務教育学校という名称になるのか。
事務局	学校という名称を使わなくても構わない。通常であれば「〇〇義務教育学校」という名称が一般的となっている。今までの話からすると、該当する学区で公募するのか、小美玉市全域で公募するのかということかなと思う。
委員	それぞれ伝統のある2つの小学校が統合するということであり、それがなくなってしまうという思いの方もいると思う。この地域の中で決まることで盛り上がり、新しい学校をつくっていかうとなるには、④の方が良いのではないかなと思う。
委員	建前と本音があると思う。全体的に公募を行えば、小美玉市内の統合小学校の名前をつけるという建前。本音は、橘小学校と小川小学校の伝統を守ろうとする地元の気持ちがある。なので、地元の方が名前をつけようという気持ちを盛り上げるために地元の方に名前を考えてもらった方が良いのではないかな。本音は、小川小学区と橘小学区の中で名前をつけることが理想ではないかなと思う。他の地区からももらった名前をつけるより、自分達が考えた名前をつけようとする気持ちの方が良いと思う。なので、そういったことを考えて進めていけたら良いのではないかなと思う。

委員 建前と本音を分けず、本音でいった方が良いのではないかと。今、委員言ったことはその通りだと思ふ。そのような話を色々と地域で聞いている。小美玉市民の中から「我々に声がかからなかった」という声はないと思ふ。今から学校の再編がある。それを周知徹底し、該当する学校の保護者や地域の方々などに知恵を借りるといふことが良いのではないかと。思ふ。

委員長 ④の方向で話が進んでいると思ふ。異議なしといふことであれば、④で決定してよろしいか。

異 議 な し の 声

委員長 それでは④でお願いしたい。

委員長 また、スケジュールの説明があつたので、他に質問はあるだろうか。

委員長 校舎建築が29年の8月からとしているが、学校建築においては工期に間に合わないといふことが多いと思ふ。期間は多くとつてあるのかを心配に思つている。平成31年4月に開校できるのかといふ思ひがある。

事務局 校舎建築については、工事の発注時期が補助事業等の関係もあり、7月から8月になる現状がある。工期については、設計会社と協議して出した期間となっているが、今後とも注意しながら進めていきたいと考えている。

委員長 単純に通常の1.5倍くらいの工期を取つているといふことか。

事務局 1.5倍といふ計算までには至つていないと思ふが、通常の工期として取つてある。

委員長 委員からはどうか。

委員 旧小川高校に小川南中が移転することについては順調なのか。移転が進まなければ、統合小の建設が始まらないと思ふ。

事務局 旧小川高校の改修工事については、5月下旬の入札、開札を経て、市議会に承認いただき、業者が決定している。現場打合せ等も済ませており、これから本格的に校舎、体育館、外構工事に着手できる段取りがついている。また、統合小の校舎建築に関しては、平成29年8月から工事に着手するとなっているが、現南中が改修後の旧小川高校へ移転しなければ、現小川南中の校舎は解体できない。さらに、校舎を解体するだけでなく、新校舎を現校舎よりも南向きに配置したことにより、グラウンド側に進入路等の造成を行う。これについては、生徒が完全に移動しなくても出来る範囲で工事に着手することは可能となっている。8月からの着手については、補助事業の関係と造成工事を含めた解体工事等の期間の考へがあるので、合わせて理解いただければと思ふ。

委員長 解体は4月からか。

事務局 そうできるように取り組んでいる。

(3) その他

事務局 校名の選定方法が④となったので、次回の統合準備委員会までに募集要項の事務局案を作成させていただく。児童の夏休み期間中での募集を考えているので、夏休み前の7月上旬に統合準備委員会を開催し、募集要項を決定していただきたいと考えている。募集要項の中において、現在の両小学校名のままのものは募集しないといったような細かいルールについても準備委員会の中で決定していただきたいと考えている。

委員長 学校は20日までとなっている。次回の準備委員会の開催はいつごろを考えているのか。

事務局 今のところは、6日を考えている。

委員長 1番身近な問題となっているPTA代表の欠席が多い。両校ともお互いに声をかけあっていただけるとありがたい。

委員 同じ日に市P連の集まりがあった関係で欠席が多くなっている。

委員長 会長さんとも調整をしていただいて、多くの方に出席してもらえるようにしていただきたいと思う。スケジュールを組むことも大変だと思うが、調整をお願いしたい。

20:15 閉会